

アクシデントの概要及び再発防止策（令和4年度）

行為別	概要	改善策	
		区分	内容
与薬・処方	容量間違いによる過剰投与	手順の徹底	・マニュアルを遵守し、薬剤の確認を行う。 (薬剤確認は、6Rで確認する。)
	指示簿の確認不足による急速投与	手順の徹底	・薬剤投与前は、指示簿で確認する。
		その他の改善	・初めて使用する薬剤は、知識・経験のある職員へ確認する。 ・ハイリスク薬等、薬についての学習を行う。
	薬剤の急速投与	その他の改善	・点滴入れ替え時はシリンジポンプを一時停止か停止して交換する。 ・点滴入れ替え後は、三方活栓の向きが適切か確認する。 ・三方活栓の開栓時は、余分な圧を逃がしてから開栓する。
	点滴滴下の確認不足による輸液の急速投与	手順の徹底	・点滴テープ固定貼り替えや差し替え後は、輸液投与量や輸液ポンプ作動状況を確認する。 ・訪室時に点滴残量や輸液ポンプ作動状況を確認する。
	患者名間違いによる誤投与(1)	手順の徹底	・マニュアルを遵守し、患者確認や与薬を行う。 (配薬は配薬ケースに入れたまま病室に持参し、フルネームで患者に名乗ってもらい、フルネームとリストバンドの2点で患者確認を行う。名乗れない場合は、リストバンドとネームプレート等で確認する。)
	患者名間違いによる誤投与(2)	手順の徹底	・マニュアルを遵守し、患者確認や与薬を行う。 (患者確認は、フルネームで患者に名乗ってもらい、フルネームとリストバンドの2点で行う。名乗れない場合は、リストバンドとネームプレート等で確認する。薬剤確認は、6Rで確認する。)
	患者名間違いによる誤投与	手順の徹底	・内服時の患者確認に関するマニュアルを順守する ・患者が氏名の名乗りを出来ない場合は、ベッドネームだけでなく、リストバンドでの確認を徹底する ・持参した配薬袋と氏名を照らし合わせ、6Rで確認する ・内服介助（医療行為）を看護アシスタントに依頼しない。また頼まれても実施しない
	患者名間違いによる誤投与	手順の徹底	・内服時の患者確認に関するマニュアルの順守 ・必ず患者に氏名を名乗ってもらい、その他にもベッドネームやリストバンドの確認を徹底する ・配薬袋を持参し、患者と共に氏名や薬剤の確認を行う ・薬剤投与時は6Rで確認する
	患者名間違いによる誤投与	手順の徹底	・内服時の患者確認に関するマニュアルの順守 ・リストバンドと氏名の名乗り、ベッドネームなどによる患者確認の徹底 ・持参した配薬袋と照らし合わせて氏名を確認する ・麻薬は他の朝食後薬と分けて配薬する（朝は基本的に日勤帯で配薬する） ・配薬直前に金庫から薬剤を出し、専用の容器に入れて持参する
	患者名間違いによる誤投与	手順の徹底	・与薬時の患者確認に関するマニュアルの順守 ・患者が名乗れない場合はリストバンドやベッドネームなどで患者確認を徹底する ・薬剤投与時は6Rで確認する ・電話で受けた指示は口頭指示書に記入し誰がみても指示内容が分かるようにする
	患者名間違いによる誤投与	手順の徹底	・内服時の患者確認に関するマニュアルの順守 ・必ず患者に氏名を名乗ってもらい、その他にもベッドネームやリストバンドの確認を徹底する ・持参した配薬袋と照らし合わせて氏名を確認する ・患者に与薬を行う時は必ず対面で行い、不在時は薬剤を持ち帰る（不在のベッドサイドに薬剤を置かない）
指示のない持参薬注射の実施	手順の徹底	・診療記録での情報収集を行い、得た情報で引き継いでいくべき内容は、掲示板等を活用し確実に伝えていく ・持参薬を使用する場合は、必ず「持参薬処方」を確認し、指示に基づいた与薬を行うように徹底する	

アクシデントの概要及び再発防止策（令和4年度）

行為別	概要	改善策	
		区分	内容
ドレーン・チューブ類の管理	不適切な挿管チューブの取り扱いによる気道損傷	手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを遵守する。（パイロットバルーンの差し込み口にシリンジを確実に差し込みエアの吸引を確実に行うとともに、パイロットバルーンの膨らみが完全でないことを確認する。） ・確認は、麻酔科医とダブルチェックする。
医療機器の操作	チャンネル登録の確認不足による異常の発見の遅れ	手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・入床時にベッドサイドモニターとセントラルモニターのチャンネル番号が一致していることを確認する。
		その他の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・セントラルモニターを使用しない患者の入床登録を行わない。 ・セントラルモニターで同じチャンネルが登録できないようシステムの設定を変更した。
治療・処置	骨折の見落とし	手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・症状が持続する場合は、整形外科へコンサルテーションする。
	創部のガラス片見落とし	手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・画像と照合し、異物の確認を行う。 ・外科、整形外科、形成外科のいずれかの専門医へ診療を依頼する。
	手技の確認不足による皮膚損傷	手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・臍帯クリップ装着中の確認は周囲の皮膚も含めて観察し、各勤務で観察する。
手術	腫瘍の見落とし	手順の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医からの紹介患者の場合も外来で必ず膀胱鏡を行い、腫瘍の大きさや位置を確認する。
		その他の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・手術時にアラグリオ顆粒剤（光線力学診断用剤）を使用し、腫瘍病変と正常細胞を見分け易くする。
	胆嚢の取り忘れ	手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・術前の情報収集時に説明した内容や、術式確認を行う。 ・マニュアルを遵守し、入室時と術前のタイムアウト時に、同意書の術式を確認する。
患者管理	患者取り違え	その他の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・氏名確認の徹底（思い込みを防止出来るようにルールの遵守） ・患者自身にも氏名を名乗ってもらい協力を得る ・病棟回診前の丁寧な情報収集 ・病棟回診表の使い方を検討し、医師間のコミュニケーションを充実する